



能古博物館だより

アカスジカメムシ (2005.5.29 撮影)

能古島の環境変化 (五)

九州大学生物研究部 有志

能古島の陸生カメムシ相

【陸生カメムシとは】

「陸生カメムシ」とは、いわゆる「カメムシ」で、アメンボやタガメなどの「水生、半水生カメムシ」と区別するために、この名称を用いています。陸生カメムシは日本では約一〇〇〇種が知られています。その多くは植食者(植物を餌とする虫)で、中にはイネや野菜、果樹などの農作物を加害する重要害虫として知られているものもいます。また特定の植物だけを餌とするカメムシも少なくありません。一方、他の虫を捕える捕食性の陸生カメムシもいます。こちらは農業害虫の天敵として現在注目されています。カメムシの口は外見がストローのような構造をしています。その口で植物の汁や他の虫の体液を吸います。今回、このように多種多様な陸生カメムシに焦点をあてて、これまで能古島で確認されているカメムシ類と自然環境

との関係について考えてみました。

【能古島のカメムシについて】

これまでの調査で、能古島には18科81種の陸生カメムシが記録されています。これらのほとんどが、福岡県内の低地、里山、沿海部で確認されている種であり、能古島の植物相を反映しているものと考えられます。以下では記録されている陸生カメムシのうち代表的なものを紹介し、近年、能古島における自然環境の変化によって、影響を受けた、あるいは受けやすいと思われる種について述べたいと思います。

【森林で主に見られる種】

ツチカメムシ科の陸生カメムシは林床でよく見られますが、植物の根や地上に落ちた種子の汁を吸って生きており、能古島では3種が記録されています。ヨコヅナツチカメムシは自然探勝路のアスファルトの上を歩いていました。自然





タデマルカメムシとママコノシリヌグイ

いるシダの上でよく見かけます。

マユミなどを食草とするヘリカメムシ科のキバラヘリカメムシや、アカメガシワなどの植物を食草としているオオホシカメムシ科のヒメホシカメムシとオオホシカメムシも記録されています。

【林縁などの草地で主に見られる種】

島の林縁や道路脇などはイネ科の草本が多く占めており、それらを食草とするカスミカメムシ科のアカスジカスミカメやイネホソミドリカスミカメが見つかりました。またクズにはマルカメムシ科のマルカメムシ、マコノシリヌグイにはタデマルカメムシが生育しています。タデマルカメムシが多く見られる草地に、以前はカメムシ科のハナダカカメムシをよく見かけたのですが、近年確認

探勝路のような照葉樹林の林床に見られる種です。また、カスミカメムシ科のズアカシダカスミカメやクビワシダカスミカメはシダ類を食草とする種で、林床に生えて

されています。

またチシヤノキゲンバイも西谷上池まわりの草むらで以前は得られたのですが、現在は環境が改変されてしまい、近年確認することが出来ませんでした。

【海岸近くで見られる種】

ヒメマダラナガカメムシは島の南部の海岸に生息しています。ハマヒルガオなど海岸に見られるヒルガオ科植物が食草と考えられています。またその近くで見られたヒメツヤナガカメムシも同様に海岸で得られることが多い種です。



ヒメマダラナガカメムシとハマヒルガオ

ヒメナガメ、ナガメは島の南部の海岸沿いのアブラナ科植物から得られました。これらは海岸というよりアブラナ科植物によく見られる種です。

出典

タデマルカメムシ、ヒメマダラナガカメムシ…日本原色カメムシ図鑑(1993)友国雅章監修、安永智秀、高井幹夫、山下泉、川村満、川澤哲夫著、全国農村教育協会  
植物の写真…生育環境別日本野生植物館(1997)奥田重俊編著、小学館

※今回は「人が栽培する植物に多く見られる種」等です  
陸生カメムシ相調査担当…和智仲是

事務局だより

この春活動を再開いたします。能古博物館では、来年の開館20周年を前に、日野原重明特別講演会(福岡市・電気ホール)に「共催」の形で参加することになりました。

講演会は本年5月10日(土)午後1時から開かれます。主催は新老人の会九州支部(原 寛世話人代表)です。皆様のご協力をお願いします。

新老人の会は2004年9月27日、日野原会長はじめ全国本支部の代表を集めた拡大世話人会を本館研修室で開催しました。また同支部福岡プランチには会員の親睦団体「能古かたろう会」があります。

当館では今回の共催を機会に研修室を「日野原ホール」と命名して、子どもたち向けの視聴覚設備を新たに導入します。設備購入資金の一部として講演会の収益が当館に贈られる予定になっています。

日野原重明特別講演会

「新老人の生き方が未来を創る」

- 〈期日〉5月10日(土)午後1時から
- 〈会場〉福岡市中央区渡辺通り2丁目「電気ホール」
- 〈整理券〉1枚2千円(新老人の会会員千円)
- 〈主催〉新老人の会九州支部
- 〈共催〉(財)亀陽文庫能古博物館
- 〈後援〉福岡県、福岡市、西日本新聞社

※整理券は新老人の会九州支部事務局で入手できます。  
お問い合わせ先 電話 092・6911・65331  
FAX 092・6911・6248

新老人の会

(財)ライフ・プランニング・センター(東京)の日野原重明理事長が提唱する「新老人運動」に賛同する人々が集まって2000年9月に発足。翌年9月、全国初の地方支部として九州支部が誕生しました。現在は全国に本、支部22、会員約7千人。



南冥と鎮西の漢詩人(六)

## 南冥と亀井昭陽

神戸女子大学名誉教授

林田慎之助

安永二年(一七七三)、亀井昭陽は南冥の長子として今の福岡市唐人町において生をうけた。時に南冥は三十一歳で、いまだ儒官の地位にはなかつた。のちに元鳳、空石山人とも号した昭陽の幼名は、昱太郎であつた。頼山陽の久太郎、古賀穀堂の寿太郎とともに、世に三太郎と称せられたほどに、少年時代から俊敏でその将来を囑望されていた。

昭陽には大壮、大年と称した二人の弟がいたが、弟たちは父南冥に似て容貌は雄偉にして、且つ俊美であつたが、昭陽だけが醜男であつたという。風貌では母方の血筋をうけていたのかもしれないが、気性の点では南冥ゆずりで、広瀬淡窓によれば、「昭陽先生ハ、氣象豪邁ニシテ、父ノ風アリ。慷慨ノ氣尤モ厲シ。然レドモ、其ノ父細行ニ拘ラズシテ、罪ヲ得タルニ懲リ、矯飾シテ己ニ克テリ。孝悌ニ至ツテハ又天性ニ出デタリ。生涯娼妓ノ類ニ近ヅカズ、二色無キニ近シ」(『懐旧楼筆

能古博物館だより



三太郎の一人、昱太郎(亀井昭陽)

記」とある。父の豪放な振舞を見て育つた昭陽は父と同質の血が自分のなかにながれていくことを感じていた。南冥の廃黜は昭陽二十歳のときであつた。亀井家の興廃を青春のまただ中でやきつけた昭陽は、父の轍を踏んではいけないと肝に銘じた。そのときから昭陽の克己勉勵がはじまつた。「生涯娼妓ノ類ニ近ヅカズ、二色無キニ近シ」とは、淡窓の推測であるが、見当違いではなかつたはずだ。

父に劣らぬ慷慨家であり、豪邁な気質であつた昭陽は、それを抑えることで学問に打込んだ。ほとんど異学の人と交わることを避け、門戸を閉じて経学の著述にいそしんだ。淡窓が「孝悌ニ至ツテハ又天性ニ出デタリ」と指摘するごとく、昭陽は終生父南冥を敬愛し、家学の再興につとめた。そこに彼のつらさがあり、屈折があり、それだけに家学の再興に賭けるはげしい意志がうずいていた。のちに、彼が南冥を超えて経学家として大成した素因もまたそこにあつた。

昭陽の学問は南冥に出たもので、大筋において徂徠学を継承していたが、徂徠学への批判をゆるがせにしないところで、亀門学独自の学風を形成した。昭陽の『読弁道』は徂徠の『弁道』を批評したものであるが、そのなかで徂徠がかついだ明の古文辞学派の旗手李攀竜・王世貞の

風采について、昭陽は「心に其の風采を議するに、終に王・李を以て程・朱に加うる能わず。是れ此に不満なる所以なり」と語っている。風采といつても、昭陽は実際にくらべみたわけではないから、これは学問文章の風采と考えてよい。昭陽の軍配は程伊川、朱子にあがつて、李・王はそれより見劣りするといふのである。「文は秦漢、詩は盛唐」に学ぶことを提唱した李夢陽の擬古文学の運動をいっそう推進した李・王であつたが、その文章は秦漢以前の文を鵜呑みにしただけで、読解に苦しむような難渋なものが多く、達意の文学ではなかつた。昭陽は李・王の文学が孔子の所謂「辞は達するのみ」の地平からほど遠いものであるとみて、徂徠がなぜ「古に航梯する」文学としてたえたのか、懐疑的にならざるをえなかつた。さらに徂徠が宋学を否定するために、(宋儒が四書をすすめたのは、四書が読みやすく、六経が読み難いからであつた)といっているのは、「妄言炎々たり」と昭陽は否定した。かく否定した昭陽は、「孟子考」「大学考」「中庸考」を著して、程朱の説の採るべきはとり、批判すべきは批判して、徂徠の矯激な学説を修正した。かかる徂徠学への批判修正は昭陽の経学のいたるところに展開されているが、亀門学が継承してきた徂徠学への志向と傾倒は一貫して変わっていない。

『論語語由述志』は昭陽の代表的著述の一つであるが、論語を生きた人間の活発な言行録



## 能古博物館だより

と読みとつた南冥の註疏の精神を継承し、その註疏の弱点を補強するために、徂徠の『論語徴』にさかのぼって学問的裏付けをおこない、経学家としての卓越した腕力を存分に発揮した。この書で「天は我が先考を生み、この義始めて明らかなり。門生宜しくここに鑑みて、論語を死物となすなかるべし」と説く昭陽は経世の学の書としての『論語』に該博謹嚴な経学の方法を持ちこみ、家学の隆盛を招来したという意味で、まさしく孝悌の実をあげた学者であったといえるであろう。

この昭陽が生まれた前後に南冥はしきりに長崎、熊本、薩摩に遊んでいる。「半夜話」「肥後物語」はいずれもかな書き文であるが、ともに南冥が三度訪れた肥後細川藩の実情を聞きして書きとめたものである。当時、肥後細川藩の儒官には、南冥の莫逆の友であった藪菰山がいた。菰山は通称を茂次郎といい、又の号を朝陽山といった。博学の漢詩人で、吏事にも耐えうる儒者であった。この菰山から南冥は両書の種になる材料をしこんだとみえる。いずれにしても肥後藩に範をとりながら、実際には筑前黒田藩に南冥の政治理念を生かすことをねらったものである。

「半夜話」では、各藩の政治をゆがめている上下藩士の賄賂の弊風を打破するためには、役人の選出法を考えなおさねばならぬが、器量才智があつて権力に附和雷同せぬ意地のある者を役人として優先的に登用すること、長

崎警備にあたっている黒田藩は幕府に遠慮せずに集団的武備の充実をはかるべきこと、肥後藩にならつて刑法官と行政官を分離独立させて法の公正を期すること、それに細民の貧窮を救済するための捨子防止案などを提案。

「肥後物語」で注目すべきは、儒者が茶道や猿楽の師匠とおなじく、儒官の役職を相続するならわしがあるが、肥後藩では「近年の改制にて、儒者の相続、不学なれば平士となし、学問よければ儒役申し付らる」ようになっていくが、これにならうべきだとし、学問とは用達なきものとみずから触れ歩く儒者の気象の低下現象をつき、さらに「心実に学問する人なきは、畢竟上の仕向あしき故と知るべし」と、藩執政の儒官登用に問題をつきつけている。いずれも経世実学の儒者南冥らしい切要の説であった。南冥廢黜の直接的原因となつたといわれている「岡県白嶋記」「太宰府旧址碑」の文章はとも一藩の境界をこえて、外夷にあたる海防策を重視して、それに関連した白嶋の島民たちの活躍をたたえ、古代太宰府庁の役割を再認識したものであつた。これは元寇の難にあつた筑前藩にとつて、海防策が重要な課題であり、それは一藩のわくをこえての日本の問題であると考え、二つの碑の建立を思ひつたのである。



三太郎の一人、久太郎（頼山陽）

かかる南冥の大胆にして率直な経世の意見は、現実的に黒田藩の藩政改革をうながすものであつただけに、ひそかに保守的な執政や腐儒たちの憎悪的となつていた。寛政異学の禁を契機にして、それが一挙にふきだし、南冥は彼らの非難と排斥をうけることになつたのである。

南冥の没後、天保三年（一八三二）に刊行された『古今奇伊呂波歌』という戯れ歌の書がある。これには亀門の門人後藤良山の漢文による註が入念にほどこされている。そのなかの幾首かをあげてみれば、医師にたずさわる者の心得がおかしく説かれていて、儒医南冥の心意気をみることができるといえる。

医は意なり意という物を会得せよ手にもとられず画にもかかれず。  
繁昌を好む心を的として直き鍼を磨ぞかしこき。

奴碑も人士君子も人病には貴賤高下はなしと知らずや。  
忘れても襟本みるな病見よ業のあがらぬ根元ぞかし。

礼樂の道も少しは稽古せよ医者の小路の往還ぞかし。  
乱世の軍稽古と我が家の医術稽古が同じ



道理ぢや。

芸術の稽古の道に二つなし上手と下手はその手練だけ。

故なきに持業というていつまでも飲ます医者の自分養生。

これを当今の医者に読ませれば、我が事かと赤面し、肝に銘ずべき心得があるはずである。この戯れ歌にも、医者として経世済民にかかわらんとする南冥の気魄があふれていて面白い。

南冥の経世の思想はもとより徂徠の『政談』太宰春台の『経済録』に端を発した徂徠学の実学重視の気風につらなるものであった。それでは綿密な経学家として

多彩な業績をのこした昭陽のなかで、この亀門の経世思想はどのようなかたちで実を結んでいたのだろうか。

寛政三年、昭陽十九歳のとき、父のすすめで山陽道に遊学して帰国した直後に漢文でしたためた『成国治要』三巻が現存しているが、これは政治、法律、経済、道徳にわたる経世の意見を、昭陽がはじめて公開したものであった。その内容は南冥が舌を巻くほどの出来ばえであった。それだけこれに打込んだ昭陽の精神的肉体的な消耗ははなはだしく、南冥は気分を入れかえをさせるために、昭陽にしきりに酒をすすめたという。



三太郎の一人、寿太郎 (古賀穀堂)

この翌年に南冥が廢黜の厄に遭い、昭陽の著述はもっぱら綿密な経書の考証に転じて、家学の再興に心を砕いた。しかしながら、昭陽の経世の志はこれで潰えたのではない。それは形を変えて門下生への教育と講義において発揮され、持続した。昭陽の門下生にたいする態度は寛容で、それぞれの才格を伸ばす術は父にまさるとも劣らなかつた。その昭陽のもとから広瀬淡窓が出たばかりではない。玄洋社の快男子頭山満らを育て、彼らから人參畑の女先生と慕われた儒医の高場乱（おんみだ）も、昭陽の子の陽州の門下生であった。

考えてみれば、徂徠学の経世済民の学風を確実にいかしきつたのは、唯、寛政異学の禁でいためつけられたこの亀門の学燈だけであつたとは、いかにも皮肉である。

昭陽は謹厳な経学家として終始し、頼山陽から田舎者と嘲笑されたが、謹厳綿密な学究の徒ににあわぬ情の人であつた。六歳で死

んだ彼の末子脩三郎を追懐した『傷逝録』は、昭陽五十歳の策であるが、その随所に、亡児に寄せる惜愛の情が実にこまやかににじみでていて美しい。在りし日の我が子の姿を偲び、綿々と追想にふける昭陽の感傷は、俗語をまじえた漢文脈のなかにみずみずしい躍動をみせ、近世のもつともすぐれた哀傷文学の一つといえる傑作を生みだしている。

文化十一年、南冥が姪ノ浜の隱宅で焚死したとき、昭陽は四十二歳であつた。彼は父の屍体が焼跡からでてきたのを見て、即座に短刀を引き抜いて自殺しようとしたという。傍人の制止にあつて、自殺を思いとどまった昭陽は、祠堂を作り、そこに朝夕居して、三年の喪に服した。広瀬淡窓は厳格に古礼を守つたこの昭陽にふれて、つぎのように記している。

後年父(南冥)ノ喪ニアリ。水漿口ニ入ラザルコト三日。服喪三年、哀毀骨立セリ。我邦三年ノ喪ニ服スル者鮮シ。貝原(益軒)先生ノ篤行スラ、三年ノ喪ハ邦人ノ勝ウル処ニ非ズ、国制ニ因ツテ、一年ノ喪ヲ用ウベシト言ワレタリ。然ルニ是ノ人ノミ、断然トシテ古道ヲ行エリ。(『懷旧樓筆記』)

このように亀井昭陽はまことに情にふかい人柄であつた、おのれを知るがゆえに、また情に忍ぶことができた真情の人であつた。南冥にしてこの子ありといえるならば、昭陽ありて、学の中途にたおれた南冥の志は亀門の学としてながく後世に伝えられることになったといえるであろう。

(注)掲載写真

頼山陽肖像画 大雅堂義亮筆 頼新氏蔵  
 出典『日本の旅人①頼山陽―歴史への帰還者』から転写  
 野口武彦著(株)淡交社発行

古賀穀堂肖像画 佐賀県立博物館蔵から

※次回は「南冥と少琴」です。



能古博物館協賛会・友の会

(敬称略・順不同)

〔法人協賛会員〕

- 浄土真宗本願寺派 浄満寺
- (医)笠松会有吉病院
- (有)ウエダ建築社
- (有)九州防災工業(株)
- (有)西部エレベーター
- サービス
- (有)豊友設備
- 総合産産(有)
- (株)ニッコク・トラスト
- (株)メイテン
- グアイアド(株)
- (株)ホスピカ
- ギャラリー倉
- (医)大乗会福岡リハビリテーション病院
- (医)江頭会さくら病院
- (株)ニチロ九州支社
- 宗教法人善隣教
- (株)リコー商会
- (株)橋本組
- 下山工業(株)
- (株)西日本シティ銀行 千代町支店
- (株)西日本シティ銀行 和臼支店
- (株)西日本シティ銀行 香椎支店
- (株)西日本シティ銀行 土井支店
- (株)西日本シティ銀行 福岡流通センター支店
- 新宮支店
- (株)西日本シティ銀行 箱崎支店
- (株)西日本シティ銀行 久山支店
- (有)サンネット
- (株)福砂屋
- (株)福岡通商
- 特別養護老人ホーム なごみの里
- エムサービス(株)
- (株)センタービジネス
- (有)トータルサポート
- コーポレーション
- 社(福)多々良福祉会
- (株)アールアンドエム
- 福岡桜坂郵便局
- 鬼般信孝
- 福岡赤坂郵便局
- 戸田正義
- 日清医療食品(株)
- 福岡支店
- 福岡経営
- 管理センター
- (株)サンコー
- (医)恵光会 原病院
- (株)西日本シティ銀行
- (株)西日本シティ銀行
- (株)西日本シティ銀行
- 千代町支店
- (株)西日本シティ銀行
- 香椎支店
- (株)西日本シティ銀行
- 土井支店
- 福岡流通センター支店
- 新宮支店
- (株)西日本シティ銀行
- 箱崎支店
- (株)西日本シティ銀行
- 久山支店
- (有)サンネット
- (株)福砂屋
- (株)福岡通商
- 特別養護老人ホーム
- なごみの里
- エムサービス(株)
- (株)センタービジネス
- (有)トータルサポート
- コーポレーション
- 社(福)多々良福祉会

御寄付者芳名

岡部 六弥 太様

「ありがとうございます」

〔協賛会会員〕

- 松本 盛二 ③
- 南 誠次郎 ⑮
- 中山 重夫 ⑫
- 管 直登 ⑧
- 早船 正夫 ⑮
- 岡部 六弥 太 ⑮
- 笠井 徳三 ⑦
- 安陪 光正 ⑤
- 亀井 准輔 ⑮
- 石橋 観一 ⑫
- 木原 敬吉 ⑧
- 原田 國雄 ⑦
- 森光 英子 ⑧
- 永井 功 ⑦
- 緒方 益男 ⑦
- 山本 稔 ③
- 武内 隆恭 ②
- 白水 義晴 ⑧
- 石野 智恵子 ⑮
- 翠川 文子 ⑮
- 多々羅 節子 ⑮
- 熊谷 豪三 ⑦
- 有江 勉 ①
- 山崎 拓 ①
- 七熊 太郎 ⑦
- 片桐 寛子 ⑦
- 西村 俊隆 ⑥
- 明石 散人 ⑧
- 矢部 俊幸 ③
- 上原 孝正 ③
- 早船 真一 ④
- 西方 俊司 ⑤
- 亀井 千秋 ④
- 土生 借子 ①
- 藤井 鉄夫 ③
- 藤井 律子 ③
- 添島 豊 ②
- 永野 豊 ②
- 藤瀬 三枝子 ⑦
- 松本美津子 ①

〔友の会会員〕

- 伊藤 茂 ⑪
- 水田 和夫 ⑥
- 木戸 龍一 ⑩
- 吉野 万里子 ⑧
- 安松 勇一 ⑪
- 上田 良一 ⑦
- 高田 浩二 ⑨
- 桑野 次男 ⑮
- 藤木 充子 ⑮
- 行成 宏子 ⑮
- 石川 洋一 ⑮
- 片岡 文之 ⑧
- 石川 久馬 ⑦
- 都筑 智一 ⑧
- 横山 清子 ⑩
- 宮崎 集 ⑦
- 西 政憲 ⑪
- 岡本 金蔵 ⑦
- 三宅 碧子 ⑮
- 星野 金子 ⑮
- 林 十九楼 ⑮
- 宮 徹男 ⑮
- 織田 喜代治 ⑥
- 上田 博 ⑮
- 鶴田 スミ子 ⑦
- 塚本 美和子 ⑥
- 伊藤 康彦 ④
- 寺岡 秀美 ⑤
- 原田 種美 ⑤
- 石橋 清助 ⑮
- 井上 敏枝 ⑤
- 隈丸 清次 ⑤
- 吉富 とき代 ⑤
- 大山 宇一 ⑥
- 葉山 政志 ⑫
- 川島 貞雄 ⑫
- 岸 洋子 ⑮
- 久芳 正隆 ⑨
- 山崎 ツ子 ④
- 鬼丸 春山 ⑦
- 宮崎 親栄 ⑩
- 佐野 至 ⑩
- 金子 柳水 ⑪
- 神崎 憲五郎 ⑦
- 青木 良之助 ⑨
- 柳田 正巳 ⑨
- 大野 幸治 ③
- 野尻 敬子 ③
- 古賀 謹二 ⑦
- 中村 ひろえ ⑨
- 足達 輔治 ⑥
- 川田 啓治 ③
- 川浪 由紀子 ⑮
- 脇山 浦一郎 ⑦
- 後藤 和子 ⑦
- 渡邊 千代子 ②
- 執行 敏彦 ④
- 西村 蓬頭 ⑧
- 伊藤 泰輔 ⑧
- 衛藤 俊史 ⑩
- 松井 映子 ⑮
- 古川 博通 ④
- 鹿毛 実 ①
- 石川 英邦 ①
- 伊藤 英子 ①
- 間所 ひさ子 ⑮
- 住本 直之 ⑦
- 村山 吉廣 ⑭
- 前田 敏也子 ⑮
- 住本 霞 ⑦
- 野崎 逸朗 ⑫
- 大野 英彦 ⑮
- 中野 晶子 ⑮
- 杉浦 五郎 ⑮
- 松田 清 ⑧
- 辻本 雅史 ⑤
- 大塚 博久 ⑦
- 甲本 達也 ⑮

- 前田 静子 ④
- 飯田 晃 ⑤
- 神戸 聡 ③
- 吉田 朝男 ⑨
- 池田 修一 ⑫
- 岩谷 正子 ③
- 小川 正幸 ②
- 権藤 菊朗 ②
- 宮崎 熊太郎 ⑨
- 土井 千草 ①
- 松坂 洋美 ④
- 福永 実 ①
- 稲永 博通 ④
- 古川 映子 ⑮
- 松井 俊史 ⑩
- 伊藤 泰輔 ⑧
- 西村 蓬頭 ⑧
- 執行 敏彦 ④
- 渡邊 千代子 ②
- 後藤 和子 ⑦
- 脇山 浦一郎 ⑦
- 川浪 由紀子 ⑮
- 川田 啓治 ③
- 足達 輔治 ⑥
- 中村 ひろえ ⑨
- 古賀 謹二 ⑦
- 野尻 敬子 ③
- 大野 幸治 ③
- 柳田 正巳 ⑨
- 神崎 憲五郎 ⑦
- 金子 柳水 ⑪
- 佐野 至 ⑩
- 宮崎 親栄 ⑩
- 春山 親栄 ⑩
- 鬼丸 春山 ⑦
- 山崎 ツ子 ④
- 元治 宗雄 ⑮
- 西島 孝信 ⑧
- 吉賀 宗雄 ⑮
- 古賀 義朗 ⑮
- 市丸 正昭 ⑮
- 市丸 嘉穂 ⑮
- 守瀬 孝二 ①
- 富永 紗智子 ①

- 吉村 陽子 ⑦
- 松本 雄一郎 ⑦
- 石橋 善弘 ⑨
- 徳重 認 ①
- 岸本 雄二 ②
- 武田 正勝 ②
- 近藤 雄文 ⑨
- 西嶋 克司 ⑨
- 榊島 政信 ③
- 上杉 和稔 ①
- 富田 英寿 ⑥
- 野上 哲子 ①
- 山上 天嶽 ⑥
- 石橋 正治 ①
- 亀石 正之 ②
- 藤田 一枝 ⑥
- 松尾 清美 ③
- 蓮尾 正博 ③
- 森 祐行 ⑦
- 吉安 蓉子 ⑧
- 村上 牧 ⑧
- 小谷 修一 ⑧
- 阿部 昌弘 ⑤
- 結城 進 ③
- 永石 順洋 ②
- 重松 ツ子 ②
- 藤吉 マス郎 ②
- 亀井 勝夫 ②
- 岸川 龍 ①
- 山本 光玄 ④
- 吉開 史朗 ④
- 香立 スミエ ①
- 野見山 実 ②
- 友原 静生 ④
- 森口 智子 ⑦
- 山本 信行 ①
- 銀座 和隆 ⑥
- 井上 陽一 ⑤
- 寿美 電氣 ⑤
- 矢野 和子 ⑤
- 宮崎 鈴子 ⑤
- 原田 正直 ⑦
- 山本 雄平 ⑥
- 高根 幸子 ③

- 柴田 優美 ②
- 谷口 澄江 ②
- 石橋 順子 ⑤
- 西原 正俊 ③
- 松熊 友彦 ④
- 木川 誠 ④
- 木野 敦代 ④
- 丸山 敏子 ③
- 江崎 小二郎 ③
- 佐藤 洋子 ①
- 稻永 カヲル ②
- 的野 彰 ①
- 高田 久美子 ②
- 森山 純子 ②
- 小山 保彦 ②
- 小山 勝子 ①
- 側嶋 眞智子 ②
- 筑紫 味子 ①
- 其原 俊一 ①
- 小原 富夫 ⑫
- 江原 幸雄 ②
- 中山 隆史 ②
- 小川 道博 ②
- 瀬野 雄市 ③
- 有吉 キチ子 ①
- 養生 聡 ②
- 生田 幸久 ①
- 森田 英子 ①
- 西山 紀子 ①
- 瀬戸 美都子 ③
- 池松 幾生 ②
- 立石 京 ②
- 小 かつみ ②
- 服部 たか子 ①
- 田代 朝子 ②
- 米濱 昭英 ①
- 三吉 進 ①
- 岡部 九州生 ①
- 平地 三郎 ①
- 安保 良輔 ①
- 一坊寺 将 ①
- 古閑 道子 ①
- 岩本 博秀 ①
- 平嶋 隆祥 ①

能古博物館ご案内

閉館 9:30~17:00 (入館16:30まで)  
 開館日 3月~11月の金・土・日  
 入館料 大人400円・高校生以下無料  
 交通 姪浜 能古行渡船場→フェリー(10分)  
 →能古(徒歩10分)→博物館  
 〒819-0012 福岡市西区能古522-2  
 ☎ (092) 883-2887 FAX (092) 883-2881  
 HP http://www.nokonoshima-museum.or.jp  
 E-mail info@nokonoshima-museum.or.jp  
 休館日 3月~11月(月~木) 12月~2月(冬季休館)  
 (団体にて御入館の場合は曜日にかわらずご相談下さい。)

※新規の御加入(先号以後、平成20年3月10日現在)を、記載いたしておりますので、何卒ご芳名をご確認ください。ありがとうございます。

自然と文化の小天地創造

協賛会(個人)年間1万円(何口でも可)  
 " (法人)年間3万円(何口でも可)  
 友の会年間3千円(何口でも可)

(館の活動、館誌購読と催事企画に参加)  
 〔館維持、資料収集、施設整備等の〕  
 〔資金援助を受ける〕

納入方法 郵便振替 01730960970  
 財団法人 能古博物館

右の会費受領は、その都度本誌に掲載、以後会費相当期間を名簿にします。

